

一九四五年八月に、日本は「大東亜戦争」に敗れました。当時の時代背景は欧米のアジア植民地競争が、日本の周辺まで迫っていました。このままでは、日本も植民地にされる危機の中にありました。

日本は、外交・文化・人的交流・政治・経済等、あらゆる手段を使い欧米に対して、平和的解決策を行使しましたが、最終的に「A B C D」網に包囲され、石油やスクラップ鉄等の輸入をストップされました。

万事休した日本は、**やむなく真珠湾攻撃を仕掛けます。**これも、日本の暗号はすべて傍受されていました。日本は、「だまし討ち」をしたとされ、アメリカ世論は一気に、日本打つべしで、アメリカの「正義の戦争」とされました。

元来、日本の戦争の目的は、日本の国防は当然ですが、アジアの解放という、崇高なものでした。(戦争は、最終的な外交手段であること)

しかし、戦争に負けるといふことは、勝者が正義で、敗者が不正義とされるものです。事後法である「東京裁判」で「平和に対する罪」「捕虜虐待」等、一方的で違法な裁判と呼べない裁判が行われました。その後「慰安婦問題」「強制労働」問題も捏造されました。

G H Qによる、「WGIP」で、執拗に日本民族の誇りや伝統を陰湿な方法で否定し続け、戦後の「敗戦利得者」である、**コミンテルンの影響を受けた、日教組や朝日新聞、NHK等が、自国民に深く贖罪意識を植え付けました。**

しかし、戦後八十年近くが経過し、**ようやく、振り子の針が逆回転し、均衡を保つ時が来ました。**自虐史観から目覚め、東京裁判を見直し、真に世界に貢献する国、日本が再生する時代に入るのです。

「地上の楽園」と言われた北朝鮮が、餓死する人々が続出するという国です。社会主義の総本山のソ連(ロシア)は、既に消滅しました。

中国共産党の独裁者習近平率いる、中華人民共和国は、監視とスパイと極端な言論統制で、何とか維持しているのが実情です。外面は、非常に厳しいですが、現実には「内向きのパーフォーマンス」と言われています。不動産バブルの崩壊・若者の就職難・景気減速は底が見えません。

要らぬ心配をすることはありません。否、日本人は自信と誇りを取り戻す秋です。

日本の中小企業が、元氣を取り戻す秋です。

幸い、長く苦しめられた「武漢コロナ」からも脱却し、国内の景気も持ち直しました。海外に出ていた企業も、続々日本に回帰しています。

法と自由と秩序とが守られる国です。聖徳太子の時代から、「和を以て、尊しとなす」国です。社長、共に、頑張りましょう。

今月のポイント

さあ、日本を取り戻そう!!

